

vol. 65

赤門だより

故
宮川準院長
追悼



故人の言葉

「一期一会」という言葉があります。一生に一度しかない出会いの意味でつかわれているようですが――「一期」は一生、一生を意味します―もとは「一期に一度の

会」の意味で茶の湯・茶会は毎回このような気持ちで誠心誠意行うべきであるとした、茶道の心を表しています。

お蔭様で今年4月に長女・愛が



結婚いたしました（現姓・木村愛）。式当日にわかったことですが、花嫁の介添え役のN様のご家族が赤門グループホーム神明町の入居者でした。この不思議な縁に我々も驚きました。そしてN様の真心のこもった介添えに感謝いたしました。

人と人との関わり合いの大切さを指摘した唐の古いことわざがあります。

「小人は縁に気付かず。中人は縁を生かせず。大人は袖すり合う縁も縁とする。」

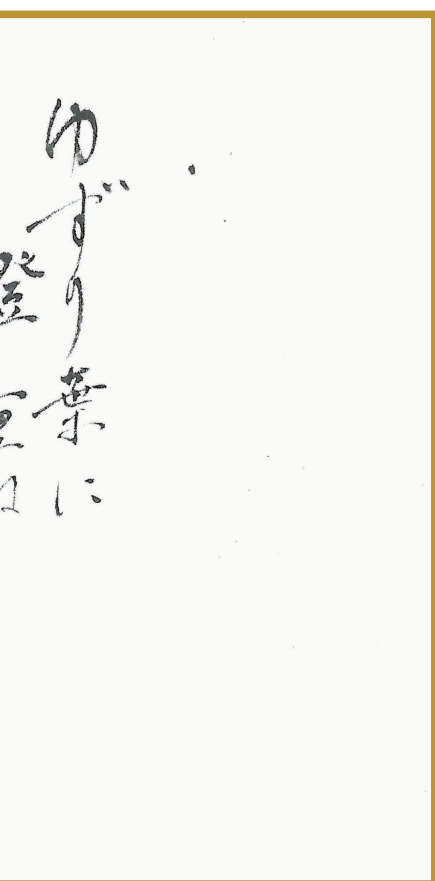
私事ですが、安房での生活が20

年を超え、いつの間にかこの2月に還暦を迎えてしまいました。そして有難いことに思いがけずも多くの方々に祝っていただきました。

「如月の 還暦祝う 安房人の縁にふれて 我に悔いなし」

患者様・利用者様・職員・地域の皆様との出会いを大切にし、お互いに支えあい感謝の気持ちを忘れずにいたいと考えています。

文 宮川準 赤門だより Vol.38（2010年）に掲載



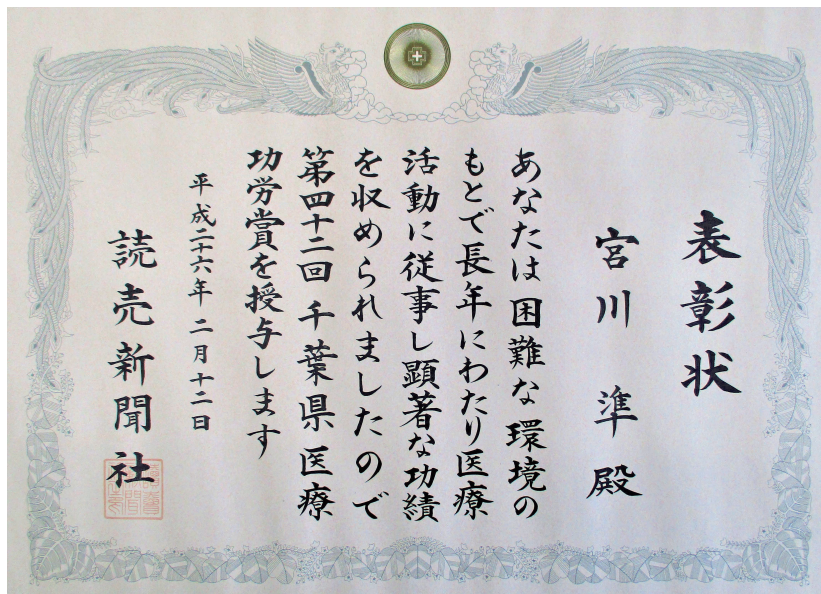
故 宮川準院長略歴

- 1950年2月10日
● 東京都港区にて生まれる
- 1974年3月
● 慶應義塾大学医学部卒業
同大学整形外科入局
- 同年4月
● 慶應義塾大学病院
他、関連病院に勤務
- 1989年4月
● 赤門整形外科内科 入職
- 2003年8月
● 医療法人社団 慶勝会
赤門整形外科内科 院長
- 2022年2月6日
● 逝去
- (団体歴)
● 2006年4月
● 社団法人安房医師会・会長
3期6年務める
- (賞罰)
● 2011年11月
● 文化の日千葉県功労者表彰
- 2014年2月
● 第42回医療功労賞

功績

2006年から2012年までの3期6年間安房医師会会長を務めた。

当時安房医師会が、運営していた安房医師会病院（1964年設立2000年新築移転）の経営不振という問題を抱えている中で、就任であった。公的補助金を受けて新築した経緯などもあり、非常に困難な状況の中、2008年太陽会に経営譲渡、医師会の資産整理にも尽力し安房地域の医療崩壊の危機を阻止し、地域医療に多大なる貢献をした。



「ゆずり葉に
橙 重ね 幾星霜」

楳（ゆずり葉）は常緑樹ですが、若い葉が育つと古い葉は茶色くなり落葉します。そのため、世代交代の象徴として正月飾りに使われています。橙（だいたい）も重ねる事で子孫繁栄を願い楳に重ねられています。赤門130年の歴史もこのようにして、多くの人が関わり作られてきたと考えています。赤門はこれからも皆様に信頼される医療機関として成長して参りたいと思います。

文、句、書 宮川準 赤門だより「創立130周年記念号」（2018年）に掲載

「追悼」

赤門整形外科内科院長・宮川準先生が2月6日に逝去されました。昨年11月下旬に体調不良となり、12月1日に診療を行った後は精密検査を行いながら自宅療養されていました。しかし12月中旬に状態が悪化し入院先で懸命に治療が行われましたが、病に打ち勝つ事ができませんでした。

宮川先生は1989年から赤門整形外科内科に就職しました。それは1988年に前身の赤門鈴木病院が創立100周年を迎え、有床診療所を新築して赤門整形外科内科に名称変更し、岳父・鈴木勝と私の二人で診療をスタートした翌年の事でした。以来、三人



体制での診療になり、外来・救急医療・手術を行ってきました。2003年8月岳父の跡を継いで宮川先生が赤門整形外科内科院長に就任し、2006年からは安房医師会会長を3期務め地域医療に貢献されました。また赤門グループには介護老人保健施設、グループホーム、通所系サービス等の施設がある為、患者様や利用者様の医療面でのサポートにも尽力して頂きました。

14年前から宮川先生の長女（木村愛先生）と長男（宮川慶先生）も非常勤医として診療に加わり、宮川先生も家族で診療ができることを大変喜んでいました。更に昨年7月からは宮川慶先生が常勤医として勤務するようになり、これから開業医として大切な事を教えていこうと考えていたと思います。71歳での他界はあまりにも早く、ご本人はさぞ無念であったと思います。私としても残念の極みです。

私ども職員一同は宮川先生の医療への真摯な想いを受け継いで、今後益々地域医療の発展・充実に努力していく所存です。

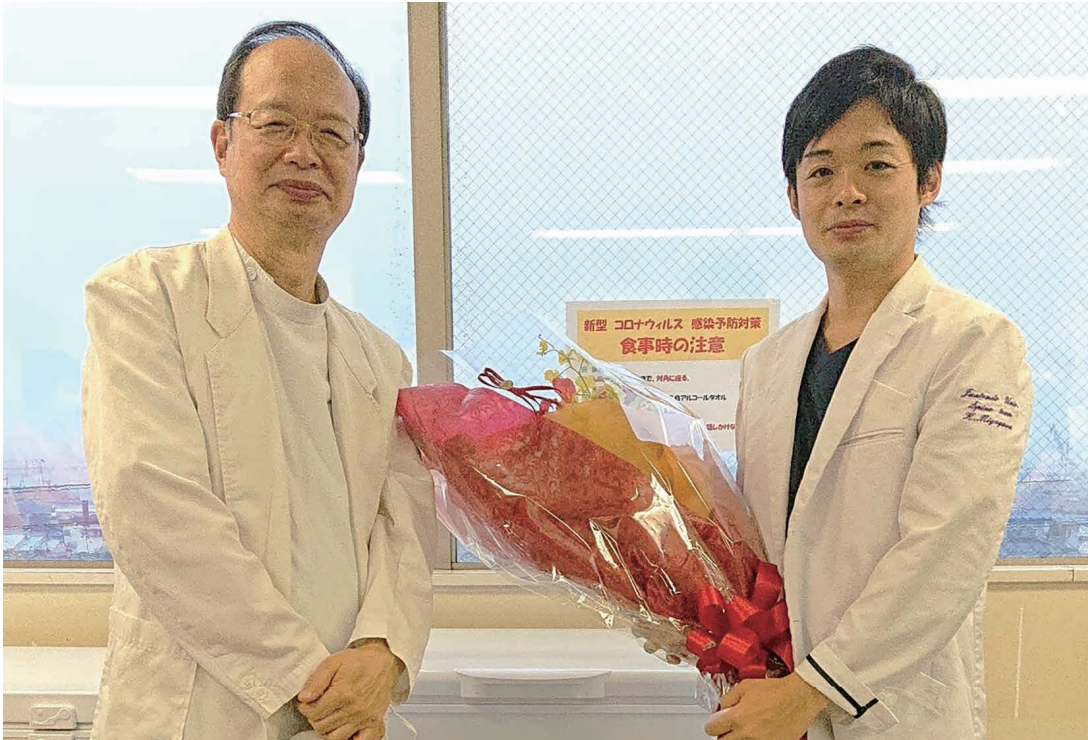


医療法人社団慶勝会 理事長

田中耕一

2019/01/01

「御礼」



父がこの世を去ってからのこの2か月、多くの方から父を偲ぶお言葉や父との想い出を聞かせていただき、改めて沢山の方に支えられて父が歩んできたということを知ることができました。多くの患者様が「院長先生にこんな話を聞いてもらった」と自慢するようにお話されていたことが特に印象に残っています。患者様のお話をしっかりと受け止め、よく聞き、共感し、その中で患者様は癒され、治療にも前向きに取り組んでいただける、そんなサイクルが父の診療にはあったように思います。目まぐるしい日々の診療の中で父がそのようにできていたことは、慈



愛に満ちた赤門のスタッフに囲まれていたからだと強く感じています。今私は父とともに歩んできた心優しい赤門のスタッフに囲まれています。父が残してくれたこの宝物を大切にしながら、一歩ずつ進んでいきたいと思っています。館山の地に来て35年間、皆様に支えられ職務を全うできたことを故人に代わり深く感謝申し上げます。ここに、生前賜りました、ご厚情に対し、厚くお礼申し上げますと共に、今後私どもに、変わらぬご厚情を賜りますようお願いいたします。

赤門整形外科内科 副院長

宮川慶

「宮川準先生の残してくれた心」

赤門整形外科内科

看護師長

神作朋子

宮川先生が、亡くなって2か月が経ちました。今もまだ、笑顔で「おはよう」と外来やナースステーションに入って来そうな気がしています。

宮川先生は、毎日外来で診察を行い地域医療に力を注いできました。病棟の回診では、患者様が笑ってしまうような優しくユーモアのある声掛けをして一人一人の患者様を大切にしていま



した。そんな先生も職員だけが知る厳しい一面がありました。救急受入や手術時は厳しい表情や言葉を発する時がありました。しかし、それは人命と直結した医療現場だからであり、その姿勢は一緒に働く私達への教示でした。また、職員に対して思いやりがあり、元気のない職員に『おい、大丈夫か、どうした。』と声をかけたり、台風災害の時は手作りのおにぎりを差し入れてくれました。ユーモアのセンスもあり診療の合間にはお互い冗談を言ってお笑った笑顔が目に焼き付いて離れません。

先生が大切にしていた言葉【利他の心】。これは「人によかれ」という心だから、まわりのみんなの事を観て考える。そうすることで、みんなから協力を得られ、視野も広くなり正しい判断ができるようになる。

先生が教えてくれたこの考え方は、仕事や人生の中で躓きそうな時に、何度も心を正してくれました。私たちは、先生が残してくれた強くて温かな精神をもって、この先も赤門整形を支えていきます。



「故 宮川準院長との思い出」

介護老人保健施設なのはな館みさき
サテライト型小規模介護老人保健施設なのはな館なぎさ

施設長

高木晴代



宮川準先生との付き合いは安房医師会病院で麻酔科医として勤務していた2000年頃からと思います。

赤門整形外科内科で行われた整形外科手術に麻酔科医として立ち会いたことがあります。無事手術が終わった後にオニギリが山ほど並べられ、宮川先生や看護師の方々と食べた記憶があります。

また、宮川先生は多趣味だったという印象もあり共通の趣味であったゴルフではお互いに車の免許を持っていなかったため、いつも宮川先生が手配してくださり、朝1台のタクシーに乗り合いでゴルフ場へ行っていました。

後から聞いた話では「これだけ一緒にゴルフに来ているのに、全く噂にならない」とぼやかれていたそうで、噂話にならないのは私に至らない点があり、申し訳なかったと反省しております（笑）。ギター柄のジャケットを着てプレーしていた時にはいくつもの柄を指さして「これもあれも持っているよ」とギター自慢をされていたことも印象に残っています。

とても話上手で常に人への気遣いを



忘れないお人柄は患者様や職員にも慕われ続けており、私も手本としておりました。

公私ともに過ごさせていただいたことに深く感謝申し上げます。

赤門整形外科内科 ご利用案内 (2022年4月時点)

● 診療時間	月～金 (午前) 9:00 ～ 12:00 (午後) 14:00 ～ 18:00 土曜日 (午前) 9:00 ～ 12:00 (午後) 14:00 ～ 17:00
● リハビリテーション	月～金 8:30 ～ 19:00 土曜日 8:30 ～ 17:00
● 外来受付時間	月～金 8:30 ～ 18:00 土曜日 8:30 ～ 17:00
● 休診日	日・祝・祭日、年末年始 (12月30日～1月3日)



最新の外来予定はこちらの
QRコードからご確認ください。



救急告示診療所・労災指定・生活保護法指定・被爆者一般疾病医療機関・公害・
難病指定医・身体障害者福祉法指定医・難病指定医療機関

医療法人社団 慶勝会 事業所一覧

赤門整形外科内科

〒294-0034 千葉県館山市沼 1619
TEL. 0470-22-0008 FAX. 0470-23-2836

介護老人保健施設 なのはな館 みさき

〒294-0303 千葉県館山市浜田 110-1
TEL. 0470-29-2700 FAX. 0470-29-2777

サテライト型小規模介護老人保健施設 なのはな館 なぎさ

〒294-0045 千葉県館山市北条 2832
TEL. 0470-24-2700 FAX. 0470-24-2701

なのはな訪問看護ステーション

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604-4
TEL. 0470-24-3113 FAX. 0470-24-3117

ホームヘルプサービスなのはな

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604-4
TEL. 0470-24-1226 FAX. 0470-24-3117

赤門ケアプランセンター

〒294-0034 千葉県館山市沼 1637-1
TEL. 0470-22-0023 FAX. 0470-23-6160

館山市地域包括支援センターなのはな

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604
TEL. 0470-22-1350 FAX. 0470-22-1351

館山市地域包括支援センターいちご

〒294-0043 千葉県館山市安布里 237-3
TEL. 0470-28-4115 FAX. 0470-28-4116

館山市認知症初期集中支援チームおれんじ

〒294-0034 千葉県館山市沼 1604-4
TEL. 0470-29-5301 FAX. 0470-29-5302

管理部

〒294-0034 千葉県館山市沼 1599 番地 1、1 階
TEL. 0470-25-7300 FAX. 0470-25-7301

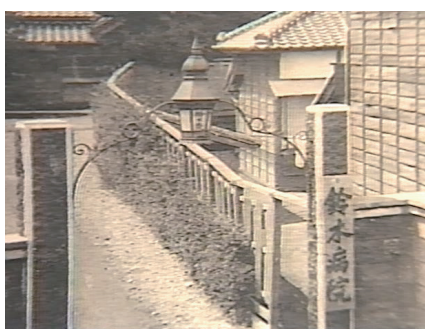
はじめに



私たち医療法人社団 慶勝会は、明治21年（1888年）産婦人科「赤門鈴木医院」の開設を礎として、時代ごとに地域のニーズにお応えすることを使命とし、これまで取り組んでまいりました。これからもこの使命を全うし続けてゆくためにも、絶えず邁進してまいります。

赤門の由来

江戸時代に南部藩（現在の盛岡）の御常宿として通称「南部屋」の名称で呼ばれていた鈴木家は、交易の司処として南部藩主より、門柱に朱塗りを、塀の上には高張り（庇）を許されました。この朱塗りの門すなわち「赤門」が名称の由来として今日まで継承されています。



この一枚



赤門だよりVol.45(2014年8月)「赤門整形外科内科126年の地域医療とチームワーク」特集の中で「常に救急を受け入れられる体制を維持するのが責務」と診察室で語る宮川院長。

医療法人社団 慶勝会広報誌「赤門だより」通巻65号
発行・責任：「赤門だより」編集発行室
千葉県館山市沼1599番地1、1階
TEL. 0470-25-7300 FAX. 0470-25-7301
ホームページ：http://www.keishokai.or.jp
発行日：2022年4月15日（年3回）
編集・印刷・写真：管理部 総合企画